



令和6年度事業報告書



本部	1
ほっとサポートしんえい	6
けやき福祉園	11
ぶどう工房	17
コトイロ日和	20
ララスマイル/ララスマイルあおば	24
クラシック	29
相談センターアンパス	32

1. 法人本部

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
①管理職が事業運営（事業の質）に力を注げる体制づくり ②業務改善による適正人員配置と持続可能な人事制度 ③既存事業所のサービス提供内容の見直し（選ばれる事業所へ） ④既存事業所の適正規模化	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
⑤理念の実現に向けた、法人運営体制 ⑥再雇用職員の活躍と職員育成 ⑦BCP の作成と運用 ⑧地域の利用ニーズと法人の強みを生かした事業所整備	
地域とのつながりを強くする	
⑨地域の応援者を増やす雇用と諸団体との協働 ⑩地域で支える仕組みと連携（仲間づくり）	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	管理者が利用者支援を中心とした事業運営を行うことができる	本部と管理者の職務分担整理	・各管理者との面談 ・分担協議	理事長面談の実施及び運営事務局会議において役割分担の確認を行った。
		管理者研修（内部）の実施	・新任管理者研修 ・定期的な研修実施の為に計画作成	必要な研修についての意見交換は行ったが定期的な実施には至っていない。
		管理者兼サビ管体制への移行	・体制移行後の振り返り	定例の運営事務局会議内において継続的に行った。

②	超過勤務を削減することができる。	事業所毎に業務改善についての話し合いを行う	・業務改善の趣旨と実施スケジュールの確認	業務改善の方向性について共有を図った。
		改善計画と目標を設定する	・運営事務局会議での共有 ・事業所内の周知と実施	各事業所で行った業務改善の周知を図った。
	事業規模に見合った予算、人員配置で事業を運営できる。	制度設計と事業収支について職員で共有する	・運営事務局会議での共有 ・職員への情報共有方法の検討	制度改正の概要の周知と利用率等の収支関係の情報共有を図った。
		事業所間で業務改善内容等運営に関する情報を共有する	・運営事務局会議の定例開催	計画どおり実施した。
	職員の職務満足が高まる人事管理の仕組みを機能させることができる。	現状と問題の整理	・現状データの整理 ・必要情報の抽出 ・職員へのアンケート等現場の意見を聞く工夫の検討	実施に至っていない。次年度以降に継続して検討していく。
③	利用ニーズに合わせたサービス提供と、本人の願いの実現に向けた支援を行なうことができる。	利用ニーズの把握と実現に向けたサビ管級会議の実施	・目的と方法についての周知 ・会議の実施	計画どおり実施した。
		個別支援計画の立て方、活かし方勉強会の実施	・サビ管級会議での問題意識の共有 ・勉強会計画の作成 ・勉強会の実施	問題意識の共有を図ったが、勉強会の実施には至っていない。
⑤	法人理念の設計図が職員に浸透し、価値観を共有したサービス提供ができる。	新任職員研修で周知する。	・新採用職員研修の実施 ・アンケートの実施	計画どおり実施したが、浸透状況等についての評価には至っていない。
		事業所毎の中期、単年事業計画の周知と評価の確認(進捗状況)	・職員会議での周知 ・進捗状況の確認と共有	
	法人単位での経営・運営体制により、理念に沿った持続可能な事業運営	法人理念、中期計画、単年度事業計画の連動と評価	・新様式での作成 ・評価を確認できる事業報告の作成	計画どおり実施した。
		運営事務局会議での情報共有と自己評価	・定例開催とサビ管級会議との共有	

	ができる。	法人理念の実現に向けた組織体制とキャリアパス制度の再考	運営事務局会議での検討と研修への参加	具体的な検討には至っていない。
⑥	再雇用職員が経験を活かした活躍ができる。	若手人材の育成と中堅職員のサポート業務	再雇用職員の役割と業務を明確にした配置	計画どおり実施した。
	対人援助の専門職としてのスキルを習得することができる。	法人研修の仕組みと階層別研修の検討(カリキュラムの作成)	- 法人研修内容の検討 - 次年度計画の作成	検討を行うが具体的な計画作成及び実施には至っていない。継続して検討を行う。
	人事管理の仕組みを踏まえた人材育成を行うことができる。	OJTの充実と面談制度の見直し	- 定期面談時期と内容の共通化の検討 - 面談の実施	
⑦	自然災害、感染症拡大等の発生時に、そのリスクを軽減し、必要な事業の継続と早期復旧ができる。	B C P計画の周知	- 新採用職員研修の実施 - 職員会議での周知	各事業所において計画どおり実施した。
		B C P研修及び訓練の実施	- 感染対策委員会の開催 - 各事業所の防災担当係での内容、実施方法の共有会議 - 各事業所単位での実施	
⑧	必要とされる地域資源の整備を計画的に進めることができる	③、④と連動して行う	- 運営事務局会議 - サビ管級会議	運営事務局会議及びサービス支援会議において問題意識の共有を図った。
		問題意識の共有と運営事務局会議での検討	- 地域の実情の整理 - 法人の強みと意義の再確認	
⑨ ⑩	地元への愛着のある人材を雇用することができる。	地域住民の雇用と役員体制	地元住民や関係機関との接点を増やすための検討	HPでの情報発信や地域イベントへの参加、販売活動等を通じて地域との交流を図った。
		親和福祉会を知ってもらう広報活動	HPの活用方法と定期的持続的な発信手段の検討	
	地域で支え合う仕組みと体制づく	地域自立支援協議会への積極的な参加	- 参加依頼の承諾 - 情報の法人内共有	計画どおり実施した。

	りに向けた協働ができる。	関係団体等や地域団体への若手、中堅職員の参加	・必要性と意義の周知 ・既存団体への参加の際の若手、中堅職員の同行	依頼のあった関係団体の委員に中堅職員を派遣した。
--	--------------	------------------------	--	--------------------------

(3) 施設整備

(単位：千円)

整備事業	計画概要	実行計画	金額	スケジュール/期限
なし				

(4) 職員数

	R6	R5	増減	備考
正規職員	39	42	-3	
専門職員	16	14	+2	
嘱託職員	2	2	±0	
短時間職員	46	42	+4	
計	103	100	+3	

(5) 開催状況

月	理事会	評議員会	委員会/研修等
4月			新任職員研修(1日)
5月			
6月	7日(金)	24日(月)	虐待防止委員会(20日)
7月			虐待防止委員会(18日)
8月			感染対策委員会(22日)
9月			虐待防止委員会(19日)
10月			感染対策委員会(23・30日)
11月			感染対策委員会(27日)
12月	17日(火)	25日(水)	
1月			
2月			虐待防止委員会(20日) 感染対策委員会(26日)
3月	18日(火)	26日(水)	

*運営事務局会議及びサービス支援会議の開催

(6) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
ファイルサーバー	275,000 円	5 月 21 日

令和6年度総括

管理者 2 名の定年による管理者の交代があり、新たな事業運営体制の中で、法人理念と基本方針に沿った運営ができるよう、情報と価値観の共有を図った。

運営事務局会議の他に、参加者を拡大したサービス支援会議を実施したことにより、具体的な支援サービスにおける課題や今後の方向性などの情報の共有や意見交換を行えたこと、中長期計画及び事業計画の進捗状況を互いに確認しながら進められたことは、法人運営体制において価値ある形となった。

一方で、人材育成及び人材確保の課題への対応が急がれる中、職務意識を高めていく研修やキャリアステップ等の人事管理の仕組み、安定した人材確保策については具体的な取り組みには至っていない為、次年度以降も継続的な検討を行いながら段階に実施していくこととする。

2. ほっとサポートしんえい

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願を一緒に育む	
①保護者の高齢化、将来の生活の場への対応 ②支援者の目指すべき価値観の共有 ③個別支援計画の見直し	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
④一人ひとりの「はたらき方」「あり方」のサービス提供	
地域とのつながりを強くする	
⑤地域参加、地域貢献の取り組み	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	将来の暮らしについて事前準備を行うことができる。	個々の状況整理と今後の見通しの確認	・利用者の年齢、家族構成、生活力を個別ファイルや面談時の聞き取りにより把握、記録し情報を共有する。	面談時の情報については記録し共有してきた。利用者への丁寧なアセスメントと意思確認が今後の課題。
	本人及び家族が親亡き後も安心して暮らすことができる	計画相談員との情報共有と利用計画への位置づけ	・将来の望む暮らしに向けたスモールステップな目標を共有する。	面談時将来についての話題提供を行い、要望を計画に取り入れ共有してきた。短期入所の利用、GHの見学・体験利用につながった。
②	支援者が目指すべき価値観を共有し、サービス提供ができ	法人理念の設計図の浸透を図る	・5月、11月に中期計画説明会動画視聴を行う。	8月に1度行った。

	る。	各種会議においては、法人理念の設計図を確認しながら進める	・会議時は常に設計図を机上に置き、目指すべき価値観を共有しながら進める。	徹底できなかった。 次年度は職員会議時に読み合わせを行い確認し意識づけていく。
③	一人ひとりの願いに向けた本人視点の個別支援計画に基づいた支援ができる。	本部の取り組みと一体となり行う	・本部と連携をとり、計画書改善案、評価表改善案の作成	できていない。 次年度しんえい運営会議で検討する。
		アセスメント方法の見直し	・新規アセスメントシートの考案、作成	できていない。 次年度しんえい運営会議で検討する。
		支援計画作成プロセスの見直し	・サビ管研修の受講と研修内容の報告会	対象者が受講したが報告会は行わなかった。
④	一人ひとりの「はたらく」選択肢が増える	現行作業の見直し	・利用者が主役にならない作業種目は、削減する。	職員中心の作業について見直しを行い次年度の計画につなげた。
		利用者主体で生産できる自主製品の商品化	・継続して試作品を作成する。	利用者の特性を活かした製品を作成・販売した。 (カレンダー、ヘアゴム、刺し子ふきん等)
	一人ひとりの「あり方」に寄り添える支援が提供できる。 介護事業の利用率を90%まで引き上げる	在籍利用者へ利用日及び利用時間増加の打診と受け入れ環境の整備	・送迎時間の見直しにより、7時間～8時間利用の方を増やす。 ・他事業所との併用利用の方に当事業所利用日増加の可能性を探る。 ・日中一時支援（延長利用）のニーズを把握する	※報酬改定の変更により利用時間の問題は解消。 併用利用者の利用増はなかったが、次年度新規利用者3名を受け入れることにした。 これとともに現状を踏まえ、定員数の見直しを検討した。
⑤	しんえいをPRして交流の機会を増やす。	どんちゃんまつりの継続	・前年度の反省点を活かした内容で実施する。	前年度に続き催事は屋内中心に出店は屋外に集め過去最高の参加状況で大変盛大に開催できた。
	地域を知りサポートすることができる。	移動支援の継続	・毎週：金曜日と第1、2火曜日に実施する。	利用者也送迎車両に乗って踏み台の出し入れ補助を行いリトミック体操に参加し予想以上の交流ができた。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援 B 型	36	40	8,334	93%
生活介護	24	21	4,030	67%

(4) 就労収入及び工賃

①就労継続支援 B 型

収入（売上）			平均工賃
上半期	2,656,812 円	6,661,731 円	13,733 円
下半期	4,004,919 円		

②生活介護

収入（売上）			平均工賃
上半期	315,823 円	629,307 円	1,217 円
下半期	313,214 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
パッケージエアコン（真柄財団助成）	733,700 円	8 月 16 日

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
生活介護男子トイレ小便器破損交換	297,000 円	5 月 25 日
資源回収保管庫シャッター交換	184,800 円	6 月 21 日
リフトワゴンサイドパネル板金修理	215,710 円	6 月 24 日
作業室、職員室前廊下補修張替え	242,000 円	8 月 24 日

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	新任（採用時）研修（1日） BCP 防災対策研修（30日）	BCP 防災対策訓練（30日）	1人
5月			
6月			1人
7月	水防対策研修（16日）	水防対策訓練（16日）	
8月	BCP 感染対策研修（22日）		4人
9月			16人
10月	虐待防止、身体拘束の研修（18日） BCP 感染症対策研修（30日）	BCP 感染症対策訓練（30日）	2人
11月	感染症対策研修（8日）		19人
12月	感染症対策研修（25日）		
1月		消防（火災）訓練（27日）	
2月	事故防止研修（7日）		4人
3月	事故防止研修（4日） 感染症対策研修（4日）	感染症対策訓練（4日） 消防（火災）訓練（21日）	1人

(8) 苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内 容	対 応
苦情	資源回収漏れ：「資源物を出しておいたのに来ない。これで3度目。来ない理由が知りたい。」とお叱りを受ける。	理由をお伝えし、協力しようという気持ちを無下にしてしまったことを謝罪する。以降、職員が確認することとした。
事故	薬の持たせ忘れ：短期入所利用者の座薬（発作時使用）を持たせ忘れてしまう。発作は起きず事なきを得た。	市に報告する。 座薬は短期入所先（クラシク）で冷蔵保管することとした。

令和 6 年度総括

しんえいでは保護者の高齢化、将来の生活の場の対応などが目前に迫っており実際に保護者の特養入所などによって本人の在宅生活が困難となり施設入所やグループホームへの入所など数名の方々の生活環境の変化があった。

将来の暮らしについて親亡き後も安心して地域で暮らす仕組みを他機関と情報を共有しながら連携を図り、成年後見制度など利用しグループホームへ移行後もしんえいに通所してくる方々も増えてきた。

ハード面では作業棟を中心に施設が老朽化している為、しっかりとメンテナンスを行いながら住環境の整備を図ってきた。真柄福祉財団の助成を利用して分解作業室には大型の 6 馬力パッケージエアコンを設置し冷暖房の効き具合が各段に向上して利用者にも喜ばれ、併せて廊下や作業室の床の修繕や資源回収小屋のシャッター交換なども計画的に実施できた。

3. けやき福祉園

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
① アセスメントの再考と個別支援計画の見直し ② サービス提供内容の見直しと業務改善	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③ 将来の暮らしに向けた支援 ④ 支援者の意識と実践力を高める取り組み ⑤ B型事業の作業環境の改善	
地域とのつながりを強くする	
⑥地域性を活かした取り組みと地域参加	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	一人ひとりの願いの実現に向け、本人視点の個別支援計画に基づいた支援が提供できる。	本部との取り組みと一体となり行う(法人での統一化) アセスメント方法の見直し 支援計画作成プロセスの見直し	- 計画書改善案、評価表改善案の作成 - 事業別アセスメントシートの作成 - モデルケースへの試行 - 評価表作成プロセスの簡素化	- サービス支援会議にて法人内事業所の書式やアセスメント方法等について現況や課題の共有を行いながら進めた。 - 次年度も継続し、計画作成までの流れやそれに伴う実施状況の記録、各書式などの修正を完成させたい。
②	経験する・楽しむを自己決定、自己選択することができる。	創作、体験、交流活動を増やす	日々の様子やアセスメントから、活動の「やりたいこと・やりたいかもリスト」を作成する。	生産活動や余暇支援、全体的に利用者ご本人が自己選択できる選択肢を設けること、より活動しやすい少人数でのグループ化を意識し、支援を行った。

			・ハピネス活動を年3回以上行い、利用者側からの発信、企画の場を設ける。 ・活動の選択肢を用意し、自分で選ぶ活動する機会を設ける。(各利用者数の50%を達成目標とする) ・少人数の活動で個々に焦点を当て、活動の充実を図る。	・就労B型では特に、利用者の方が主体的に話し合う場「ハピネス活動」を実施し、外出活動の行先など意見交換を行っている。 ・目標の達成度を数値で表すのは難しいが、次年度も継続し、自己決定に基づいた活動等を増やしていく。
		業務内容の見直しと改善	・既存の活動内容の見直しと新規活動の検討と試行	具体的な見直しにはつながらなかった。次年度も継続し、日課の充実を図る。
		新たな余暇活動の備品や環境整備	・新たな余暇活動備品の購入 ・新たな活動場所の発掘(B&G、グリーンセンターなどの地域資源を活用)	・休憩時間などに楽しめる備品を購入している。 ・活動場所の新たな開拓には至らなかったため、次年度も継続する。
③	将来の暮らしを見据えた支援を提供することができる。	生活能力向上に向けた活動の実施	・実際の日常の生活場面を想定した取り組みの実施 ・少人数の余暇活動、外出を通して、社会体験を積み重ねスキルアップを目指す。	・ご本人の得意なことや、習得することで生活力が向上しそうなことなどを、日々の活動や外出活動に取り入れた。 ・次年度も継続し、実施する。
	暮らしを家族、関係機関と共にサポートすることができる。	本人、家族、支援者の共通意識への取り組み	・保護者への利用者の現状、様子の伝え方の改善、試行(面談時やお便り等に利用者に関する画像を活用するなど) ・必要な方に連絡ノートの活用を推奨する。	・面談時にタブレットで画像や動画で活動等の様子を保護者に見ていただくことで、より具体的に共有できた。次年度以降も継続する。

④	学びを共有し、チームで必要な支援を実践することができる。	研修後の目標設定とPDCA	• 個々の研修後の目標設定と定期的な振り返り • 会議等を通して、研修報告を行い、学びの共有を深める。	会議等での研修報告は実施したが、研修参加者個々での目標設定までは至らなかった。次年度は内部研修を活用し、より継続的な学びを目指す。
		職員のメンタルヘルスの仕組みづくり	• 研修係によるメンタルヘルス研修の実施 • 定期的なメンタルヘルスの取り組みの実施(社内風土づくりのためのサンスカードの活用など)	• 研修とグループワークをそれぞれ2回実施した。 • 毎月実施しているメンタルヘルスチェックを元に2回、管理者面談を実施した。
⑤	意欲とやりがい高まる環境で働くことができる。	施設外作業の再考	• メーター分解等、作業の場としてのグリーンセンターの活用など • 作業種目の選定	軽作業を行う場としても、グリーンセンターを活用した。
		特性に合わせた備品、補助具の整備	• 個々の障害特性に応じた作業環境や作業種目の整備、立案 • B型作業室内の見直し小グループの作業班制の試行	パーテーションなども活用しながら、小グループでの環境設定を模索した。次年度も継続する。
⑥	地域とのつながりを増やし、広げることができる。	地域の農家と共に畑作を行い、地域交流行事に活用する	• 地域農家との畑作活動を通じた交流行事の実施 • 買い物支援を施設全体の取り組みにする(正職員は最低1回を参加目標とする) • リサイクル品回収の開始(満日地区住民との結びつきを深める)	• 地域農家と連携し、畑作活動を実施したが、交流行事の実施には至らなかった。次年度も継続し検討する。 • 買い物支援への職員参加は達成できた。 • リサイクル品回収について、地域との連携まで至らなかった。次年度も継続し検討する。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援 B 型	40	50	11,420	114%
生活介護	15	16	3,626	97%

(4) 就労収入及び工賃

①就労継続支援 B 型

収入（売上）			平均工賃
上半期	4,937,875 円	12,712,580 円	17,138 円
下半期	7,774,705 円		

②生活介護

収入（売上）			平均工賃
上半期	432,886 円	709,990 円	1,997 円
下半期	277,104 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
フォークリフト バッテリー	660,000 円	4 月 16 日
エアコン（外作業室）	143,000 円	7 月 4 日
冷凍冷蔵庫	381,700 円	1 月 10 日
ハウス育苗機	156,000 円	2 月 25 日
リサイクル品回収箱（物置）	225,575 円	3 月 18 日

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
車両エアコン	198,220 円	8 月 9 日
送迎バスフロア	248,600 円	11 月 8 日

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	・新任（採用時）研修（1日） ・BCP 感染対策研修（25日） ・BCP 非常災害対策研修（25日）	消防訓練【地震】（15日）	
5月			1人
6月	職員研修（29日）		
7月	・採用時虐待防止・身体拘束適正化・感染対策研修（1日） ・虐待防止研修（グループワーク 23、31日）		2人
8月	・事故防止研修（28日） ・虐待防止研修（グループワーク 1、8、16日）		3人
9月	採用時虐待防止・身体拘束適正化・感染対策研修（2日）	・消防訓練【火災・通報】（30日） ・水防訓練（30日）	17人
10月	虐待防止研修・身体拘束適正化研修（19日）	地域合同防災訓練【火災】（23日）	1人
11月	感染対策研修（28日）	・感染対策訓練（28日） ・BCP 感染対策訓練（28日）	13人
12月	採用時虐待防止・身体拘束適正化・感染対策研修（5日）	BCP 非常災害対策訓練（26日）	
1月			2人
2月			5人
3月	感染対策研修（27日）	・消防訓練【火災・通報】（26日） ・感染対策訓練（27日）	

※毎月 事業別職員会議・ケース会議、全体職員会議を開催

(8) 苦情の受付及び事故の発生状況（※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	クラシック利用について、事前にキャンセルの連絡を受けていたが、誤って利用のお知らせを配布してしまった。	事業所内の伝達不足を謝罪し、クラシック利用についての伝達方法について再度確認を行う。
	帰宅した後、鼻に赤い痕が付いていた。事業所からもケガをさせた側からも連絡がない。	マスクで鼻の痕には気づかず、事業所から先に連絡できなかったこと、利用者間トラブルの経緯と事実確認を説明し、ケガをさせてしまったことを謝罪する。
事故	なし	

令和 6 年度総括

令和 7 年 4 月に新潟市内で入所施設が開所したこともあり、退所者が 3 名と多い年度になった。利用者や保護者の高齢化も進んでおり、安定的な利用者確保は今後も継続した課題となるため、「選ばれる事業所になる」意識を持ち、継続した質の高いサービス提供が可能となるよう、広い視野で学んでいきたい。また地域とのつながり作りについて、6 年度は具体的に実施することができなかったため、次年度も継続して検討していきたい。

4. ぶどう工房

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
① 特性に合わせた柔軟なサービス提供 ② 利用者のライフステージに応じた支援	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③ 自主製品の安定と持続性 ④ 利用できる対象者の拡充と事業経営の安定	
地域とのつながりを強くする	
⑤ 自主製品の販売やイベントへの参加を通して交流	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	病気の再発を防ぎ、安心して働ける場所を提供することができる。	関係機関・医療機関との連携を深める。	・体調の安定を図るために、必要に応じて、関係機関・医療機関と情報を共有する。	利用者の体調安定を目的に関係機関・医療機関と情報共有した。
	1人ひとりの状況に合わせた働き方ができる。	半日利用を可能にする。	・送迎を行える人員の確保をする。	送迎体制の強化に向け、送迎業務に対応可能な人員を新たに確保した。
②	高齢化や「親なき後」を見据えた支援を提供できる。	社会資源などの情報を提供する。	・必要と思われる情報をピックアップする。 ・相談員によるサービスや制度についての勉強会の実施。	一部の利用者と家族に対して個別に情報提供を行ったが、全体への周知や勉強会の実施には至らず、当初の計画に対して限定的な実施にとどまった。

③	安定した工賃を持続的に提供することができる。	工賃を確保する。	作業の確保と作業工程の見直しを図る。	新規受託作業の拡大により作業量の安定を図った。作業工程の見直しについては引き続き検討する。
	支援者がパン製造の専門的技術を習得することができる。	講師による技術指導。及びマニュアルの作成。	- 年 2 回、「パン製造」講習会を開催する。 「パン製造」基本マニュアルの作成。	講師との都合が合わず講習会は実施できず、マニュアルのみ作成となった。
④	利用率を 80%以上に維持することができる。	利用できる対象者の拡充を図る。	- 支援学校へ情報を提供する。 - 積極的に見学を受け入れる。	月ごとの変動はあったが年間平均利用率 80%を達成できた。対象者の幅を広げ、知的障がい者の新規受入を行った。
⑤	販売や地域イベントへの参加を増やす。	地域とのつながりを継続する。(買い物支援等	地域との連携を図り、安心安全に事業を継続して行く。	地域とのつながりを重視し、イベントへの参加や買い物支援を実施した。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援 B 型	20	23	4,210	85%

(4) 就労収入及び工賃

①就労継続支援 B 型

収入(売上)			平均工賃
上半期	6,042,738 円	13,918,250 円	36,905 円
下半期	7,875,512 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
軽自動車 1 台 ファイナンスリース	26,290 円/月	3 月 19 日

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
非常灯	539,000 円	12 月 13 日
電話機 基盤交換	79,200 円	2 月 10 日

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月			
5月			
6月			1人
7月	新任（採用時）研修（8日） 採用時虐待防止・身体拘束適正 化・感染対策研修（8日） BCP 感染対策研修（15日） BCP 非常災害対策研修（15日）		2人
8月			
9月	合同研修（27日）	消防訓練【地震・通報】（27日）	3人
10月	虐待防止・身体拘束研修（18日）	地域合同防災訓練【火災】（23 日）	1人
11月			
12月	感染対策研修（9日）	感染対策訓練（18日）	
1月			
2月		水防訓練（28日）	
3月	事故防止研修（7日）	BCP 感染対策訓練（7日） BCP 非常災害対策訓練（7日）	

※毎月2回職員会議・ケース会議を開催

(8) 苦情の受け付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

令和6年度総括

6年度は、利用率80%以上の維持を重点的に取り組む事項とし、利用状況に応じた柔軟な受け入れ体制の整備に努め、特に半日利用への対応を可能とする体制を構築いたしました。

また、6年度は新たに3名の利用者を受け入れ、支援体制の充実を図ってまいりました。一方、退所者は4名おられ、引き続き利用者の確保と安定した支援の提供に努めていきたい。

5. コトイロ日和

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願を一緒にはぐくむ	
①利用者が活躍できる環境と仕組みづくり ②資質向上とリスクマネジメント	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③個別支援計画の見直し	
地域とのつながりを強くする	
④専門知識のいる製造作業の安定性と持続性	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	個々の得意を活かした働き方ができる。	セントラルキッチン化 人員集約と環境整理と設備導入	・厨房のレイアウトの見直し ・適切な調理設備の導入 ・作業環境の整備	コトイロ本体の調理設備を整備し人員を集約した。
		分業製造による効率化	・利用者のスキルの評価と作業の割り振り ・業務手順や作業の流れの計画 ・利用者へのマネジメントとサポート	「つくる」「販売する」の両方に携わっていただけるように、生産活動配置の見直しを行った。 (継続)
	販売に行き、人と接することができる。	製造量と販売品目の増加	・必要な設備、資材を確保し生産性を向上させる ・需要の高い商品を生産する	外部向け弁当7種、総菜3種を毎日20～30個製造・販売を行った。 (継続)

		利用者と外部販売の実施	- 販売活動の計画と実施 - トレーニングと準備 - サポートとフォローアップ	店舗販売と他事業所（3か所）での販売を行った。（継続）
②	安心・安全の食を届けることができる。 自信とやりがいを持って取り組むことができる。	衛生管理の勉強会	- 勉強会の計画と実施 - 継続的な学習と改善	感染症対策として手洗い講習会を実施した。（継続）
		マニュアルの作成	- 厚生労働省の衛生管理マニュアルを参考に作成する - 定期的な更新と改善	作成できなかった。（継続）
		新たな挑戦ができる作業設定	- 利用者の能力や興味の把握 - 目標の設定とフィードバック	カフェへの勤務に挑戦したい利用者が増えた。1名、本体からカフェ勤務に移行できた（継続）
		目標を設定し、定期的に振り返りをして評価する。	- 個別面談の実施 - 目標を現実的で達成可能なものにする - 定期的なフォローアップ	定期的に面談を実施した。スモールステップな目標を設定しその達成に向けて取り組んだ（継続）
③	一人ひとりの願いに向けた本人視点の個別支援計画に基づいた支援ができる。	本部との取組みと一体となり行う	本部と連携を取り、計画書改善案、評価表改善案の作成	サービス支援会議にて、法人内事業所の書式やアセスメント方法等について現況や課題の共有を行いながら進めた。次年度も継続し、計画作成までの流れやそれに伴う実施状況の記録、各書式などの修正を完成させていく（継続）
		アセスメント方法の見直し	- 本人用聞き取りシート及び評価シートの作成 - 実施後の振り返りと修正	
		支援計画作成プロセスの見直し	障害特性に合わせた本人用計画の作成	
④	多くの人にコトイロの味を届けることができる。	SNS等を活用して広く情報発信する。	- 定期的な投稿 - 魅力的な内容を投稿する	インスタグラムを定期的に更新した。

		メニューの工夫、季節に合わせたメニューを取り入れる。	・コトイロ風弁当の開発 ・季節感を演出するメニューの考案	給食にて、麺類やビビンバ等新規メニューに取り組んだ。ぶどう工房と連携し、クリスマス向けメニューを作成した。 (継続)
		販路の開拓をする。	・新たな販売機会を見つける ・SNS等を活用して広く情報発信する	店舗販売の他、事業所(3か所)へ出向き販売を行った。
		①②の取り組みと連動して行う。	・①②の実行計画と同様	様々な販売機会を活用していく(継続)

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援B型	20	21	4,828	95%

(4) 就労収入及び工賃

収入(売上)			平均工賃
上半期	13,999,952 円	32,012,687 円	29,508 円
下半期	18,012,735 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
なし		

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
なし		

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	新任（採用時）研修（1日）		
5月	BCP 非常災害対策研修（8日）		
6月		BCP 非常災害対策訓練（20日）	
7月		水防訓練（11日）	
8月		消防訓練（21日）	
9月			
10月	虐待防止・身体拘束研修（18日）	消防訓練（16日）	1人
11月	BCP 感染対策研修（15日）	BCP 感染対策訓練（15日）	2人
12月	感染対策研修（11日）	感染対策訓練（11日）	1人
1月			
2月			
3月	事故防止研修（13日）		

(8) 苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

令和6年度総括

令和6年度は、コトイロ日和本体をセントラルキッチン化し人員集約と環境整備を行った。給食業務は、新規メニュー（麺類、ビビンバ等）を増やし、法人内事業所の方から好評だった。外部向け弁当の製造販売は、コトイロキッチン（店舗）での販売を主としながら、他にも3事業所へ直接販売を行った。

衛生管理マニュアルが未作成で終わってしまったので、次年度への継続課題とする。

6. ラスミイル/ラスミイルあおば

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒に育む	
①本人視点の個別支援計画の作成と PDCA サイクルの徹底	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
②事業所の整備と必要なサービス提供の調整 ③人材の確保と育成	
地域とのつながりを強くする	
④家族が安心して子育てするためのサポート体制	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	一人ひとりの願いの実現に向け、本人視点の個別支援計画を作成することができる。 (2年後)	本部の取り組みと一体となり行う	・サビ管会議への参加 ・個別支援計画作成の勉強会への参加	サービス支援会議にて法人内事業所の書式やアセスメント方法等について現況や課題の共有を行いながら進めた。
		本人と一緒に作るためのアセスメントの見直し、面談の実施	・本人用聞き取りシート及び評価シートの作成 ・モデル実施（発達、知的） ・実施後の振り返りと修正	・個別支援計画の書式の修正を行った。 ・本人視点での計画作成に向け、アセスメント方法や本人視点について話し合いを重ね、意識の共有を行った。 ・次年度も継続し、書式の検討、見直しを行っていく。
		本人に伝えるための支援ツールの作成と説明	・障害特性に合わせた本人用計画の作成 ・モデル実施	
	個別支援計画に基づいた支援を行うことができる	全職員が支援の方向性や目標を共有できる支援会議の実施	・個別支援計画を常に確認できるようにする（見える化） ・個別支援検討シートの作成 ・モデル実施	提供する支援について共通認識を図れるよう、支援内容や活動等について情報を整理し、支援プログラムを作成した。

		支援計画を中心とした打合せの実施と日課の組み方の工夫	・個別支援を軸にした日課の見直し ・活動項目に応じた活動内容とテーマの見直し ・個別目標が確認できる活動計画書の作成	次年度も、個々の支援を意識し、パート職員も含めた打合せ方法や日課の組立て方について引き続き検討を行っていく。
		計画に基づいた評価可能な支援記録の取り方の研修と実施	・記録シートの見直し ・記録の取り方の見直し	記録シートを見直し、記録の取り方について勉強会を実施した。
②	地域に関わらず必要なサービスを提供することができる	事業の整備については本部と一体となっていく	・児発開始に向けたスケジュールを組む ・児童発達支援の環境整備 ・活動プログラムの検討 ・事業所の見学	・事業所見学を行い、必要な環境及びプログラム等の検討を行った。 ・放デイ事業所の整備計画が延期になっていることもあり、具体的なスケジュール作成には至っていない。
		対応できる送迎範囲を考え、事業所設置場所の検討を行う	・既存利用者の学校区整理 ・送迎にかかる時間の想定	学校ごとの生徒数と中学校区の地域を踏まえ設置候補地域の検討を行った。
		地域の利用格差を解消するための方法を検討する	・送迎体制の見直し	次年度の利用状況に合わせて送迎体制を検討した。状況に応じて、事業所間での協力体制が円滑に行えるよう見直しを行った。
	将来に向けた支援提供を行う。 成長段階に応じた必要なサービスを調整することができる。	既存利用者の利用ニーズの把握と情報を整理する	・聞き取りシートの作成 ・モデル実施 ・実施後の振り返りと評価	次年度の利用に関して、利用希望調査を行った。
③	業務や支援に必要なスキルを習得することが	外部研修への参加と研修後の施設内勉強会の実施	・事業所見学 ・外部研修参加後の勉強会実施方法の検討	職員が参加した研修をもとに、伝達研修を実施した。

	できる。		・勉強会の開催	
		自分たちの学びを共有する、内部研修の実施	・テーマに基づいた研修を企画し、実施する。	①に関する内部研修を実施した。
		研修後の目標設定とPDCA	・目標管理シートの実施 (内部研修と合わせて行う)	研修内容をふまえ各自で取り組んだ。事業所としての評価と見直しを行った。シートは未活用。
		職員間で担当する業務を教える、サポートする体制を作る	・現場リーダーを設ける ・業務内容の見直しとマニュアル作成 ・エルダー制度の導入の検討	他の人の業務や現状を確認し、課題について意見交換を行い、業務の見直しを行った。
④	保護者が子育てに関わる情報を得ることができる。	保護者同士のつながりの機会の提供	・保護者が参加型の行事についてアンケートを実施 ・行事の検討と実施	保護者アンケートを実施した。次年度、保護者向けの行事の開催について検討する。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
ララスマイル	20	64	5,766	103%
ララスマイルあおば	20	38	4,751	99%

(4) 固定資産等購入

事業所	購入品名	金額	購入日
ララスマイル あおば	建具（ドア）、床張り替え工事	1,056,000 円	4月5日
	車両 8 人乗り	1,744,000 円	4月4日
	置き去り防止装置	133,200 円	4月4日
	車両 4 人乗り（リース）	2,296,000 円	4月8日

(5) 修繕

事業所	修繕内容	金額	実施日
ララスマイル	3の部屋床修繕工事	440,000 円	6月1日

(6) 研修及び訓練

ララスマイル

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4 月	新任研修（1 日）※採用時 BCP 感染非常災害対策研修 （23 日）※全体及び採用時		
5 月	虐待防止・身体拘束適正化採用 時研修（30 日）		1 人
6 月	事故防止研修（26 日）	水防訓練【水害】（18 日）	1 人
7 月		消防訓練【火災】（31 日）	
8 月			1 人
9 月	合同研修（30 日）		2 人
10 月		BCP 非常災害対策訓練（26 日）	2 人
11 月	合同研修（29 日） 感染対策研修（29 日）	消防訓練【地震】（15 日）	2 人
12 月		感染対策訓練（18 日）	1 人
1 月	虐待防止研修（31 日）		1 人
2 月		BCP 感染対策訓練（26 日）	4 人
3 月	合同研修		1 人

※毎月（8月以外） 職員会議開催

ララスマイルあおば

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	新任研修（1日）※採用時 BCP 感染非常災害対策研修 （23日）※全体及び採用時		
5月	虐待防止・身体拘束適正化採用 時研修（30日）		
6月	事故防止研修（18日） 感染対策訓練（18日）	水防訓練【水害】（2日）	2人
7月			1人
8月		消防訓練【火災】（21日）	
9月	合同研修（30日）		1人
10月			3人
11月	合同研修（28日） 感染対策研修（28日）	消防訓練【地震】（19日）	
12月		BCP 非常災害対策訓練（12 日）	
1月	虐待防止研修（31日）		
2月		BCP 感染対策訓練（18日）	1人
3月	合同研修		

※毎月（8月以外） 職員会議開催

（7）苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	【ララスマイルあおば】 職員の対応（言い方）への苦情。	経緯と事実確認を行い、不快な思いを させてしまったことを謝罪する。 職員に対して保護者対応についての 留意事項を改めて確認を行う。
事故	なし	

令和6年度総括

依然として高い利用ニーズがある中で、新規事業所の開設及び児童発達支援事業の開始など計画していたが、地域の事業用物件の不足と共に、人材の確保も大きな課題となり、計画の延期・再検討を行うこととした。地域では新規開設の情報がある中で、質の高いサービス提供を持続的に行っていく視点で今後の方向性を見極めていきたい。

7. クラシク

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
①グループホームへの移行に向けた取り組み	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
②小規模の特性を活かした法人外部利用者の受け入れ ③利用ニーズと稼働日のバランスがとれる職員配置	
地域とのつながりを強くする	
④家族が安心して子育てするためのサポート体制	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	安心と自信をもって、グループホームに移行できるよう、各施設と連携した支援を提供できる。	本部、各施設の取り組みと一体となり行う。 移行に向けた段階的な体験の機会の提供（洗濯や掃除等）	- 将来の暮らしに向けた意向の情報共有 - グループホーム移行希望の確認 - 体験希望者との面談と実施	本人との面談及び相談員からの情報提供から意向を把握し共有を図った。 ご利用の際に本人の希望に応じて、掃除・洗い物などの体験の機会を提供した。
③	利用ニーズに応じて稼働日を増加することができる	者・児童の枠にとらわれない職員配置に向けた取り組み（勤務の工夫）	者の支援施設職員の児童受け入れ稼働日の遅番勤務の配置	職員体制の関係もあり、稼働日の増加には至らなかった。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
短期入所	5	65	656	85%

(4) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入時期
なし		

(5) 修繕

修繕内容	金額	修繕時期
なし		

(6) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	BCP 感染非常災害対策研修 （23日）※全体及び採用時		
5月	虐待防止・身体拘束適正化採用 時研修（30日）		
6月	事故防止研修（26日）	水防訓練【水害】（18日）	
7月		消防訓練【火災】（31日）	
8月			
9月			
10月		BCP 非常災害対策訓練（26 日）	
11月	感染対策研修（29日）	消防訓練【地震】（15日）	
12月		感染対策訓練（18日）	
1月	虐待防止研修（31日）		
2月		BCP 感染対策訓練（26日）	
3月			

(7) 苦情の受付け及び事故の発生状況（※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	指示書の確認不足による誤薬。	管理者に報告。保護者に連絡、状況説明し謝罪。保護者の指示のもと、翌日まで体調観察を行う。（特変なし）

令和 6 年度総括

将来の暮らしを見据えた支援の提供が各事業所での課題にあげられている中で、事業所や相談員との情報共有を図りながら、具体的な親と離れた暮らしのイメージ・体験ができるよう利用の受け入れを行なった。

新たに将来を見据えて定期利用を行う方や、グループホームへの体験利用につながるケースもあり、引き続き本人とご家族が将来の安心した暮らしに向けた事前準備ができるよう事業運営を行っていきたい。

8. 相談支援センター アンパス

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願を一緒に育む	
① 本人中心の計画づくり	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
② 相談員 1 人あたりの相談件数の適正化 ③ 多様化するニーズに対応するため、情報を得る仕組みづくり	
地域とのつながりを強くする	
④ チーム支援を常に意識し、多職種間で連携できる関係性づくり	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	本人の意向を中心とした、サービス等利用計画の作成ができる。	アセスメントの書式について再考	- 他事業所等の書式を集める - 必要な項目等について検討	アセスメントの書式の見直しを行い、新しい書式を作成し活用している。今後も定期的な見直しを行っていく。
		アセスメントシートの活用方法について検討	アセスメントシートの更新時期や、基本情報との使い分けについて検討	アセスメントシートはライフステージの変化時に更新。基本情報は計画更新時に更新することとした。
		サービス等利用計画の書式（書き方）の検討	- 児童の計画について、書き方の統一を検討する。 - ライフステージや生活状況に応じた、統一すべき内容等について検討する。	サービス等利用計画の書き方について再確認した。ライフステージごとに確認する事項については継続して検討しながらまとめていく。

②	ライフステージの変化を見通し、1人1人の生活プランに丁寧に向き合うことができる。	相談員 1 人あたりの担当件数について検討	新規依頼の状況や、その他目標の進捗状況等を見ながら、担当件数の増減について検討する。	介護保険への移行等で終了した利用者が 15 名。新規受け入れが 11 名。児童の新規依頼が多かった。
	1 人 1 人の生活プランを、地域で支えるチーム（仲間）を作ることができる。	相談連絡会への常時参加	毎回 1 名以上参加する。	相談連絡会には毎回 1 名以上参加した。
		自立支援協議会(ワーキング含む)への参加	各自ワーキングに参加し、所内で情報を共有する。	自立支援協議会やワーキングに参加し、会議の内容を所内で共有した。
		各種会議、研修への積極的な参加	参加し、所内で報告することで学びを共有する。	現任研修、地域定着研修等に参加し、研修内容を定例会議等で共有した。
		24 時間対応及び、地域生活支援拠点登録について検討	半期に 1 度程度、所内会議にて、支援が必要な家庭についての共有を行う。	定例会議で支援が必要な家庭について共有し、24 時間対応について検討した。

(3) 利用者の受け入れ

	契約者数	計画	モニタリング
特定相談	213	218	547
障害児相談	80	93	149
計	293	311	696

(4) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
なし		

(5) 修繕

修繕内容	金額	実施日
なし		

(6) 研修及び訓練（研修・訓練は、ほっとサポートしんえいと共に行う）

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	BCP 非常災害対策研修（30日）	BCP 非常災害対策訓練（30日）	
5月			
6月			
7月			2人
8月			3人
9月			3人
10月	虐待防止,身体拘束研修（18日） BCP 感染対策研修（30日）	BCP 感染対策訓練（30日）	2人
11月			2人
12月			2人
1月			2人
2月			2人
3月	事故防止研修（4日）		

※週に1回 定例会議を開催

(7) 苦情の受付け及び事故の発生状況

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

令和6年度総括

アセスメントの書式を見直したりサービス等利用計画の書き方について再確認したりした。7年度も引き続きサービス等利用計画の書き方について確認しながら、ライフステージごとに確認する事項についても検討していく予定。利用者については、介護保険等に移行し終了した方もいる反面、児童の新規利用者も多かった。毎週行っている定例会議では、課題を共有したり必要なサービスについて検討したりすることができており、広い視点でより良いサービスにつなげられるよう心掛けた。

